

長崎嚥下リハビリテーション研究会

第8回（平成28年）

摂食嚥下コーディネーター
資格認定試験問題

平成28年(2016) 3月13日(日)

試験時間 10:00～12:00

会場: 共済病院8F講堂

問題 A

問 1. 脳卒中治療ガイドライン2015でグレードAに当てはまるものを選びなさい。

1. 脳卒中患者においては、嚥下障害が多く認められる。それに対し、嚥下機能のスクリーニング検査、さらには嚥下造影検査、内視鏡検査などを適切に行い、その結果をもとに栄養摂取経路(経管・経口)や食形態を検討し、多職種で連携して包括的な介入を行うことが強く勧められる。
2. 経口摂取が困難と判断された患者においては、急性期から(発症7日以内)経管栄養を開始したほうが、末梢点滴のみ継続するよりも死亡率が少ない傾向があり勧められる。
3. 発症 1か月後以降も経口摂取困難な状況が継続しているときには胃瘻での栄養管理が勧められる。
4. 頸部前屈や回旋、咽頭冷却刺激、メンデルソン手技、supraglottic swallow(息こらえ嚥下)、頸部前屈体操、バルーン拡張法などの間接訓練は、検査所見や食事摂取量の改善などが認められ、それぞれの症例にあわせて包括的な介入として実施することが勧められる。
5. 構音障害によるコミュニケーション障害を改善する目的の訓練は、行うことが勧められる。

問 2. 肺炎に関する記述のうち、誤っているものを選びなさい。

1. 日本人の死因の第3位は脳血管障害に変わって肺炎になった。
2. 脳卒中に肺炎を合併しても、死亡リスクそのものは変わらない。
3. 高齢者では脳卒中後に不顕性誤嚥とそれに伴う肺炎を起こしやすい。
4. 高齢者の肺炎は年代の増加に伴って、誤嚥性肺炎の割合が増加する。
5. 肺炎での入院患者数は高齢者が大半である。

問 3. 唾液に関して誤りを選びなさい。

1. 唾液腺は大唾液腺(顎下腺・耳下腺・舌下腺)と小唾液腺(口唇腺・口蓋腺)からなる。
2. 1日およそ1.0~1.5リットル分泌される。
3. 水分が99.5%以上である。
4. 分泌量は舌下腺が最も多い。
5. 消化作用がある。

問 4. 国際生活機能分類(I C F)に関する次の記述のうち、正しいものを選びなさい。

1. 対象は、障害のある人に限られる。
2. 障害を、社会環境から切り離して捉えている。
3. 健康状況とは、課題や行為の個人による遂行のことである。
4. 障害を機能障害、能力障害、社会的不利に分類したものである。
5. 世界保健機関 (WHO)により採択され、国際的に用いられている。

問題 A

問 5. 「関連する情報の分析・統合を通じて、利用者の課題、ニーズ、強みを明らかにすること」を表す用語として、適切なものを選びなさい。

1. チームアプローチ(teamapproach)
2. アセスメント(assessment)
3. モニタリング(monitring)
4. アウトリーチ(outreach)
5. インテーク(intake)

問 6. 自力で動けない患者の肺炎予防に適切なものを選びなさい。

1. 毎食後のはみがき
2. 毎食後のタッピング
3. 抗菌薬の予防投与
4. 経管栄養

問 7 大脳の味覚中枢は以下のどこか？

1. 海馬
2. 後頭葉
3. 小脳歯状核
4. 島皮質
5. 黒質

問 8 下記の薬剤(カッコ内は商品名)の中で、現在我が国の医療保険でアルツハイマー型認知症に正式には適応がない薬剤はどれか選びなさい。

1. リバスタチグミン(商品名イクセロン・パッチ)
2. メマンチン(商品名メモリー)
3. ドネペジル(商品名アリセプト)
4. クエチアピン(セロクエル)
5. ガランタミン(商品名レミニール)

問 9. 誤っている組み合わせを選びなさい。

1. アルブミン----栄養
2. ALT(GPT)----肝機能
3. クレアチニン----腎機能
4. クレアチニンキナーゼ----糖尿病
5. 尿酸----痛風

問題 A

問 10. 誤っている組み合わせを選びなさい。

1. アルツハイマー病----認知症
2. 脊髄小脳変性症----失調
3. デュシェンヌ型筋ジストロフィー----近位筋萎縮
4. ギラン・バレー症候群----呼吸障害
5. 筋萎縮性側索硬化症----同名性半盲

問 11. 誤っているものを選びなさい。

1. 加齢に伴い喉頭は下垂する。
2. 嚥下反射の中枢は延髄にある。
3. 輪状咽頭筋は嚥下時に弛緩する。
4. 吸啜反射は3ヶ月頃から減弱する。
5. 嚥下機能は1歳頃までに完成する。

問 12. 脳卒中片麻痺患者のADLで誤っているものを選びなさい。

1. 車いす駆動は非麻痺側上下肢で行う。
2. シャツの更衣では麻痺側上肢の袖から通す。
3. 起き上がりの動作では非麻痺側を下にして寝返る。
4. ベッドから車いすへの移乗では麻痺側寄りに車いすをつける。
5. 段差を上る際には非麻痺側下肢から上げる。

問 13. 肺炎の原因となるのはどれか選びなさい。

1. 胃内細菌数減少
2. 口腔内細菌数減少
3. 心房細動
4. 不顕性誤嚥
5. 鉄欠乏性貧血

問 14. 体温を調節しているのはどれか選びなさい。

1. 橋
2. 小脳
3. 中脳
4. 視床下部

問 15. 蛋白質で正しいのはどれか選びなさい。

1. アミノ酸で構成される
2. 唾液により分解される
3. 摂取するとそのままの形で体内に吸収される
4. 生体を構成する成分で最も多くの重量を占める

問題 A

問 16. 健常な成人の体重における水分の割合に最も近いのはどれか選りなさい。

1. 20%
2. 40%
3. 60%
4. 80%

問 17. 体温の調節機構で正しいのはどれか選りなさい。

1. 体温の調節中枢は脳幹にある。
2. 体温が上昇すると、骨格筋は収縮する。
3. 体温が上昇すると、汗腺は活性化される。
4. 体温が低下すると、皮膚の血流は増加する。

問 18. 低栄養状態はどれか選りなさい。

1. BMI23.0, アルブミン3.8g/dL
2. BMI21.5.0, アルブミン3.6g/dL
3. BMI18.0, アルブミン2.8g/dL
4. BMI16.5, アルブミン3.5g/dL

問 19. 成人の1日の平均尿量はどれか選りなさい。

1. 100mL以下
2. 200mL～400mL
3. 1,000mL～1,500mL
4. 3,000mL以上

問 20. 高齢者の栄養摂取の実態で正しいのはどれか選りなさい。

1. 蛋白質の摂取量は年齢とともに増加する。
2. 総エネルギー摂取量は成人と変わらない。
3. 糖質に偏った摂取傾向にある。
4. 脂質の摂取量は成人よりも増加する。

問題 B

- 問 1. 高齢者嚥下障害の特徴として、間違っているものを選びなさい。
1. 口腔期障害は軽度である
 2. 不顕性誤嚥が多い
 3. 安静時の喉頭の位置が低い
 4. 咽頭残留が多い
 5. 男性に多い
- 問 2. 人体の部位と疾病, 病態との関連性に関する次の記述のうち正しいものを選びなさい。
1. 吐血とは、気道から口腔を経て血液を排出することである。
 2. 上腕骨骨折は、寝たきりを引き起こしやすい。
 3. 対麻痺とは左右どちらか半身に起こる麻痺である。
 4. 腫骨部の褥創は、仰臥位で起こる。
 5. 声帯の障害は、誤飲を引き起こす。
- 問 3. 高齢者にみられる病態の特徴に関する次の記述のうち正しいものを選びなさい。
1. 皮膚の湿潤は、褥瘡の発症リスクとなる。
 2. フレイル(虚弱)は、慢性疾患の終末期の状態である。
 3. 感音難聴では、低い音から聞こえにくくなる。
 4. 変形性膝関節症は、廃用症候群に属する。
 5. 記憶障害では、短期記憶よりも長期記憶が低下する。
- 問 4. 摂食・嚥下障害で咽頭期に起因する症状を2つ選びなさい。
1. むせる
 2. 咀嚼に時間がかかる
 3. 食事後に声に変化する
 4. 口から食物がこぼれる
 5. 食渣が口腔前庭に停滞する
- 問 5. 脳卒中患者の摂食・嚥下障害で誤っているものを選びなさい。
1. 急性期に高頻度に見られる
 2. 体位調整は誤嚥防止に役立つ
 3. 仮性球麻痺があると生じやすい
 4. 水はペーストよりも誤嚥しやすい
 5. 右側の咽頭麻痺では顔を左に向けて食べさせる

問題 B

問 6. 高齢者の摂食嚥下障害の要因として誤っているものを選びなさい。

- mm
1. 臼歯咬合の喪失
 2. 喉頭位置の下垂
 3. 嚥下反射惹起の遅れ
 4. 嚥下性無呼吸時間の短縮
 5. 嚥下反射に必要な食塊量の増加

問 7. 看護・介護のポイントとして正しいものを選びなさい。

1. 一口量が多すぎないよう、ペースが早くなりすぎないようにし、介助者の意識を嚥下に集中させる。
2. むせていなくても誤嚥している場合があることを考慮することが重要であり、嚥下後に咳払いをさせることはあまり重要ではない。
3. 発熱、痰の増加、呼吸苦など肺炎の発症が疑われる症状がみられたら、すぐに主治医に相談せず経過を観察する。
4. 上肢の運動障害などがある場合は、患者が用いやすい食器を選ぶ。
5. 介助する場合、介助者のペースが早くなりすぎないようにする。

問 8. パーキンソン病/レビー小体型認知症で、ほとんどみられない症候はどれか選びなさい。

1. 小股歩行
2. 舌萎縮
3. 幻視
4. 嗅覚感度低下
5. 嗅覚識別能低下

問 9. 前頭前野眼窩面の機能が低下すると、以下のどの症状が顕著になることが多いか選びなさい。

1. 運動失調
2. 脱抑制行為
3. 片麻痺
4. 嚥下障碍
5. 空間認知能低下

問 10. パーキンソン病でみられる症状はどれか。組み合わせを選びなさい。

- a. ミオクローヌス
 - b. 姿勢反射障害
 - c. 小字症
 - d. 失調性歩行
 - e. 弛緩性麻痺
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e

問題 B

- 問 11. アルツハイマー病の病理学的検査はどれか。組み合わせを選びなさい。
- 老人斑
 - 脱髄斑
 - レビー小体
 - ピック小体
 - 神経原線維変化
1. a、b 2. a、e 3. b、c 4. c、d 5. d、e
- 問 12 早い人では40歳代～50歳代から起立性低血圧、排尿・性機能障害で発症し、進行すると歩行障害・嚥下障害・呼吸障害が出現する疾患を選びなさい。
- 筋委縮性束索硬化症
 - アルツハイマー型認知症
 - パーキンソン病
 - 多系統萎縮症
 - 前頭側頭葉変性症
- 問 13 発症早期から姿勢保持反射低下により転びやすくなり、経過中に眼球運動障害、認知機能低下、晩期になれば嚥下障害、発話障害が出てくる疾患を選びなさい。
- 脳血管性認知症
 - アルツハイマー型認知症
 - 前頭側頭葉変性症
 - レビー小体型認知症
 - 進行性核上性麻痺
- 問 14 「情の脳」といわれ、認知症の行動・心理症状に関与している脳の部位はどこか？
- 海馬
 - 黒質
 - 扁桃核
 - 乳頭核
 - 小脳歯状核
- 問 15 嚥下機能が障害された患者において、下記の大脳・脳幹反射の中で減弱・消失することが多いのはどれか選びなさい。
- 眉間反射
 - 人形の目反射
 - 軟口蓋反射
 - 下顎反射
 - 吸引反射(吸てつ反射)

問題 C

問 1. 摂食・嚥下に関わる器官について、誤っているものを選びなさい。

1. 喉頭蓋---嚥下時、気管への入り口を遮断する
2. 口---消化管の始まり
3. 顎---咀嚼に関わり上顎と下顎が動く
4. 軟口蓋---挙上し鼻腔とを遮断
5. 舌---食塊形成

問 2. 嚥下障害で起こりうる症状について、誤っているものを選びなさい。

1. 喉頭下垂により喉頭残留しやすい
2. 口腔内の感覚低下によって一口量が減少する
3. 軟口蓋挙上不全により鼻腔への逆流がある
4. 歯牙欠損により口腔残留が増える
5. 喉頭挙上遅延により唾液を誤嚥する

問 3. 嚥下機能について誤っているものを選びなさい。

1. 正常な口腔期では鼻咽腔が閉鎖される
2. 咽頭期障害ではむせの有無を観察する
3. 正常な咽頭期では舌骨が挙上する
4. 口腔期障害では舌機能が問題となる
5. 正常な咽頭期は喉頭蓋が上方へ回転して始まる

問 4. 食の支援に関わる食種とその役割の組み合わせで適切なものを選びなさい。

1. 歯科衛生士----義歯の作成
2. 管理栄養士----経腸栄養の処方
3. 言語聴覚士----嚥下機能の評価
4. 薬剤師----摂食行動の評価
5. ソーシャルワーカー----食事環境の調整

問 5. 嚥下障害患者の治療のポイントとして以下にあげるものの中で誤っているものはどれか
選びなさい。

1. 経口摂取の可否を判断するうえで、嚥下機能のみならず精神・身体機能の評価も重要である。
2. 脳卒中などによる急性発症例では、早期から口腔ケアや食物を用いる訓練を開始する。
3. 経口摂取の開始時は、一般的に誤嚥しにくいゼリーやペースト食を選択する。
4. 経口摂取の開始後は、患者の摂食する様子を観察し、肺炎徴候の有無を確認する。
5. 誤嚥していてもむせない場合があることに留意し、嚥下後に咳払いをさせたり湿性嗝声を確認する。

問題 C

問 6. 嚥下障害患者の病態として正しいものを選びなさい。

1. 嚥下とは食物を口腔から大腸まで移送する一連の動作であり、随意運動による口腔期、反射運動による咽頭期、蠕動運動による食道期の3期に分類されている。
2. 咽頭期は小脳の嚥下中枢でプログラムされた強固なパターン運動により遂行されている。
3. 嚥下の過程に機能的または器質的障害が存在し、食物の適切な移送が妨げられている状態が嚥下障害であり、脳血管障害、神経筋疾患、頭頸部癌などさまざまな疾患のほか、加齢変化や全身衰弱などによっても生じる。
4. 食物が気道に流入することは誤飲とよばれ、肺炎や窒息の原因となる。

問 7. 嚥下障害患者の診断に関する説明のうち誤っているものを選びなさい。

1. 問診ではむせや飲み込みにくさなどの自覚症状のみならず、肺炎徴候、既往歴、内服薬なども聴取する。外来患者では症状を自覚している場合も多い。
2. 精神・身体機能の評価を行うとともに、口腔や咽頭、喉頭を診察する。喉頭の診察が困難な場合は発声させて、声門閉鎖不全による氣息性嘔声や唾液誤嚥を示唆する湿性嘔声の有無を確認する。
3. 簡易検査(スクリーニング検査)として、反復唾液嚥下テスト、水飲みテスト、食物テストなどが利用されている。
4. 精査が必要ならば、X線透視下で嚥下関連器官の運動と造影剤の動態を評価する嚥下造影検査や、軟性喉頭内視鏡を咽頭腔に留置した状態で食物を嚥下させ誤嚥や咽頭残留の評価を行う嚥下内視鏡検査を施行または依頼する。

問 8. 咽頭期は食塊が後方の咽頭口部に送りだされるときに始まる。適切なパターンと強さをもった感覚刺激が孤束核に届くと、疑核において、パターン化された連続した運動事象発現の引き金が引かれる。この連続して起こる事象には気道防御と食塊推進の双方が含まれており、それらは随意的コントロールの及ばない領域である。これらの事象には次のようなものがあるが間違いが一つある。それはどれか？

1. 口蓋帆咽頭閉鎖(口蓋帆の短時間の前方移動と、それに続く非常に速い挙上と咽頭の側壁・後壁への堅固な接触)
2. 舌骨喉頭複合体の挙上と前方移動
3. 真声帯、仮声帯の閉鎖と呼吸の中断
4. 喉頭口を覆う喉頭蓋の反転
5. 口蓋咽頭筋の上前方移動
6. 上食道括約筋の開大

問題 C

問 9. 間違っているものを選びなさい。

1. 経腸栄養者と経口摂取者を比較した場合、すべての口腔内日和見菌において、経腸栄養者が経口摂取者より検出率が高かった。
2. 誤嚥すると必ず肺炎を発症する。
3. 34歳±3.7歳の健常者でも、50%が睡眠中に唾液誤嚥している。
4. 高齢者の8割が不顕性誤嚥している。
5. 70歳以上の元気高齢者の28%が不顕性誤嚥している。

問 10. 間違っているものを選びなさい。

1. 回復期リハビリテーション病棟では、活動量の増加に伴い栄養投与量を増やす必要がある。
2. 入院患者の嚥下障害は、療養病床>回復期リハビリテーション病院>一般病棟の順に多い。
3. 回復期リハビリテーション病棟入院患者の約30%に嚥下機能低下が認められる。
4. 療養病床入院患者の約10%に嚥下機能低下が認められる。

問 11. 筋と運動神経支配との組み合わせで誤っているものを選びなさい。

1. 胸鎖乳突筋----副神経
2. 側頭筋----三叉神経
3. 頬筋----顔面神経
4. 舌筋----舌咽神経
5. 輪状咽頭筋----迷走神経

問 12 脳血管障害急性期の栄養管理として誤っているものを選びなさい。

1. 消化管には異常がないことが多いので、原則として経口摂取、経腸栄養を実施する。
2. 意識障害がなく病状が安定している場合は、嚥下機能評価の結果に応じて可能な限り早期に経口摂取、経腸栄養を開始する。
3. 広範な脳梗塞や重度の脳出血があり、脳浮腫進行に伴う嘔吐の危険が高い場合は、病態が安定してから発症後1週間を目安に経腸栄養を開始する。
4. 早期に経腸栄養が開始できなかつたり、十分なエネルギー投与ができるようになるのに時間がかかたりする場合には静脈栄養を併用する。
5. 誤嚥性肺炎や下痢の発症率の低下させるため積極的に半固形状流動食の使用が推奨されている。

問題 D

問 1 嚥下機能のスクリーニング検査について誤った記述を選びなさい。

1. 反復唾液飲みテスト(RSST)は2回以上が正常である。
2. 改訂水飲みテスト(MWST)のプロフィールで嚥下あり、むせるか湿性嘔声ありは3である。
3. 食物テスト(FT)のプロフィールで、嚥下あり、むせなし、湿性嘔声なしは4である。
4. 簡易嚥下誘発試験(S-SPT)は嚥下運動の誘発までの時間を観察するが、0.4mlの水で嚥下運動まで3秒以内で正常である。
5. カフテスト(Cough Test)は1分間クエン酸液を吸入してもらうが、5回以上咳がみられれば正常である。

問 2 嚥下の機能分類に含まれないものを選びなさい。

1. 藤島の摂食・嚥下能力のグレード
2. 摂食・嚥下障害重症度分類(DSS:Dysphagia Severity Scale)
3. Modified Rankin Scale (MRS)
4. The Mann Assessment of Swallowing Ability (MASA)
5. Functional Oral Intake Scale:(FOIS)

問 3 嚥下内視鏡と嚥下造影のメリット・デメリットで誤っているものを選びなさい。

	嚥下内視鏡	嚥下造影
1. 被曝	なし	あり
2. ベッドサイドでの検査	可能	不可
3. 咽頭・喉頭知覚の有無	容易	困難
4. 食道期の判定	可能	不可
5. 唾液誤嚥の判定	容易	困難

問 4 咽頭期嚥下障害の間接訓練はどれか？組み合わせを選びなさい。

- a. 両唇音の構音訓練
- b. 舌の運動訓練
- c. バルーン拡張法
- d. 頭部挙上訓練
- e. ゼリー摂食訓練

1.a b 2.a e 3.b c 4.c d 5.d e

問 5 誤っている組み合わせはどれか1つ選びなさい。

1. 咽頭残留-----頭部挙上訓練
2. 鼻腔への逆流-----舌尖挙上訓練
3. 誤嚥物喀出困難-----随意的咳訓練
4. 嚥下反射惹起低下-----冷圧刺激法
5. 喉頭蓋谷への残留-----舌根後退運動

問題 D

- 問 6 吹く動作(口腔気流)により鼻咽腔閉鎖に関わる神経・筋群の活性化が促進される。
(対象者は鼻咽腔閉鎖不全により水分、食物が鼻腔逆流する患者)この訓練は以下の
どれを説明したものか？
1. シャキア・エクササイズ
 2. ブローイング訓練
 3. プッシング・プリング訓練
 4. メンデルソン手技
 5. バンゲード法
- 問 7 嚥下訓練・食事指導について誤っているものを選びなさい。
1. 喉のアイスマッサージは持続効果は低いが即時効果があるので食事前に行う。
 2. シャキアエクササイズは定義通りに行うと患者さんに負担がかかるので注意する。
 3. ブローイング訓練など患者さんの趣向を取り入れ楽しく持続するように工夫しても良い。
 4. 嚥下訓練を実施する際は吸引器を準備するなどリスク管理に努める。
 5. 嚥下障害者は自力摂取可能であっても誤嚥を予防するため、姿勢に注意し出来る限り
食事介助を行う。
- 問 8 高齢者の摂食嚥下障害に大きく影響する要因はいくつ存在するか選びなさい
- a. 認知症の存在、 b. 薬剤の影響、 c. 嗜好の変化、 d. 聴覚の変化、
e. 筋力・筋量の低下、 f. 大脳の萎縮、 g. 水分・栄養状態の低下 h. 胃内容物の逆流
1. 4つ
 2. 5つ
 3. 6つ
 4. 7つ
 5. すべて
- 問 9 日常会話から嚥下機能を評価するポイントがあります。組み合わせとして不適切なものは
どれか選びなさい。
- A. 一息で長く話せない B. 痰の絡んだような声 C. 声が小さい□
D. 鼻にかかったような声(開鼻声) E. 舌の先で作るラ行タ行ダ行が不明瞭
- a. 食べこぼしや流涎 b. 痰の喀出が不十分 c. 食べ物の送り込みが不十分
d. 喉頭侵入のリスク
1. A-b
 2. B-d
 3. C-b
 4. D-a
 5. E-c

問題 D

問 10 サルコペニアによる嚥下障害の特徴として不適切なものはどれか選びなさい。

1. 頭部挙上が自分でできない
2. 嚥下までのストローク数が減る
3. 舌の厚さが薄い
4. 舌圧が弱い
5. 喉頭挙上時間が長い

問 11 飲食物の喉頭流入を確認できるのはどれか組み合わせを選びなさい。

- a. 嚥下圧検査 b. 頸部聴診法 c. 嚥下内視鏡検査 d. 嚥下造影検査
e. 改訂水飲みテスト

1. a-b
2. a-e
3. b-c
4. c-d
5. d-e

問 12. 誤っている組み合わせはどれか選びなさい。

1. 構音障害----文字盤使用
2. 顔面神経麻痺----マッサージ指導
3. 嚥下障害----嚥下造影検査
4. 記憶障害----メモリーノート使用
5. 運動性失語----人工喉頭

問 13. 正しい組み合わせはどれか選びなさい。

1. 鼻咽腔閉鎖----改訂水飲みテスト
2. 声門閉鎖----反復唾液嚥下テスト
3. 食塊形成----嚥下圧検査
4. 喉頭挙上----嚥下内視鏡検査
5. 食道入口部開大----嚥下造影検査

問題 E

問 1 誤嚥しやすい食品を選びなさい。

1. 煮たタケノコ
2. 山芋トロロ
3. 絹ごし豆腐
4. まぐろのトロ
5. 熟した柿

問 2 正しいものを選びなさい。

1. きざみ食は、咀嚼しなくても良いので食べやすい。
2. 口腔内保持や、口腔から咽頭への送り込みが難しい場合には、サラサラした液体やミキサー食が適している。
3. 液体にトロミを付ける場合は、できるだけしっかりとトロミを付けた方が良い。
4. 食事の温度は、なるべく体温に近いものが良い。
5. しっかりした味や香りは嚥下反射誘発に有効である。

問 3 正しいものを選びなさい。

1. 食器の色は、食材の色がはっきり分かる物を選択する。
2. どのような場合でも、自力摂取を優先する。
3. 車イスに座って食事をする場合、足はフットレストに乗せる。
4. 認知症がある場合には、賑やかな環境のほうが食事に集中できる。
5. 食事介助をする場合、スプーンは患者の目線より上からもっていく。

問 4 口腔の動きを引き出す方法として、間違っているものを選びなさい。

1. 好きな味付け、好きな食べ物の選択。
2. スプーン等で舌に刺激を入れながら食事介助をする。
3. 言葉による説明、食事を見せる、匂いを嗅いでもらうなど、より多くの情報を与える。
4. 覚醒を促す。
5. 一口量を少なくする。

問 5 咽頭通過に問題がある嚥下障害患者の食事に関して間違っているものを選びなさい。

1. 一口量は少ないほうが良い。
2. 固形物が適している。
3. 横向き嚥下が有効な場合がある。
4. 複数回嚥下が有効な場合がある。
5. 息止め嚥下が有効な場合がある。

問題 E

問 6 口腔から咽頭への送り込みに問題がある嚥下障害患者の食事に関し、間違っているものを選びなさい。

1. 固形物よりミキサー食が適している。
2. 体幹を後方へ倒して介助する。
3. 舌の後方へ食事を入れる。
4. 一口量は多めにする。
5. しっかりした味付けにする。

問 7 口腔ケアの効果として正しいものを選びなさい。

1. プラークの形成
2. 唾液分泌の促進
3. 口腔内のpHの酸性化
4. バイオフィルムの形成

問 8 経管栄養の患者の口腔ケアに関する記述のうち正しいものを選びなさい。

1. 口腔から食物を摂取していないので、口腔ケアは不要である。
2. スポンジブラシは滴るほど水を含ませて使用する。
3. 経管栄養が終わってすぐに口腔ケアを行う。
4. 口腔ケアは側臥位、またはヘッドアップで行う。

問 9 口腔ケアをおこなうことで期待できることとして、間違っているものを選びなさい。

1. 口腔機能の改善
2. 嚥下機能の改善
3. 唾液分泌の減少
4. 味覚障害の改善
5. 意識レベルの改善

問 10 口腔ケアの手技として間違っているものを選びなさい

1. 義歯は必ず外して口腔ケアをおこなう。
2. 残存歯がない場合でも、口腔ケアは必要である。
3. 経口摂取をしていなくても口腔ケアは必要である。
4. ガーゼなどで軽く拭き取るだけでも、口腔ケアの効果は十分期待できる。

問 11 口腔ケアを拒否された場合の対処法として間違っているものを選びなさい

1. コミュニケーションを図り、緊張や不安を取り除く。
2. 頸部や顔面のマッサージをおこなう。
3. 口腔内に動揺している歯や歯肉の炎症、痛むようなむし歯がないか確認する。
4. とにかく口腔ケアをおこなう。

問題 E

問 12 間違っているものを選びなさい

1. 在宅療養患者の約3割が咀嚼に問題を抱えている。
2. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会「嚥下調整食分類」は、コード0からコード8に分類される。
3. コード0に近いほど、重度の嚥下障害患者に適した物性となっている。
4. コード0tは、嚥下食ピラミッドL3の一部(とろみ水)と同じである。

問 13 嚥下機能が低下している患者の食事介助として適切なものを選びなさい。

1. 飲み込むときは頭部を後ろに傾ける。
2. 食事が終わるまで水分は与えない。
3. 咀嚼しているときに次に食べるものを説明する。
4. 食べ物を口に入れたら、口唇を閉じるように声をかける。

問 14 むせやすい高齢者の食事介助について適切なものを選びなさい。

1. 食前の深呼吸や口唇の運動は、疲れて嚥下機能が低下するので行わないほうがよい。
2. 汁物は嚥下しやすいのでそのまま摂取する。
3. スプーンはできるだけ大きく深いものとし、1回量を多くすることにより食事の所要時間を短くする。
4. 食後は食物残渣を除去するためにも口腔ケアを行い、口腔内を清潔にする

問 15 咽頭期の嚥下障害のある在宅高齢者。食事のむせが強くなってきたために妻から相談を受けた。進める食事の調理方法で正しいものを1つ選びなさい。

1. 汁物にする
2. 香辛料をきかせる
3. とろみをつける
4. 細かくきざむ

記述問題

以下のA, B, Cの各問いから2問を選択して説明をなさい。

- A. 食塊形成は摂食・嚥下の働きに不可欠である。歯の喪失(無歯顎状態)は摂食・嚥下のこの要素(食塊形成)にどのように影響するだろうか？

- B. UES(上食道括約筋)の運動の生理機能について説明せよ

- C. 摂食・嚥下メカニズムに対する年齢の影響について述べよ